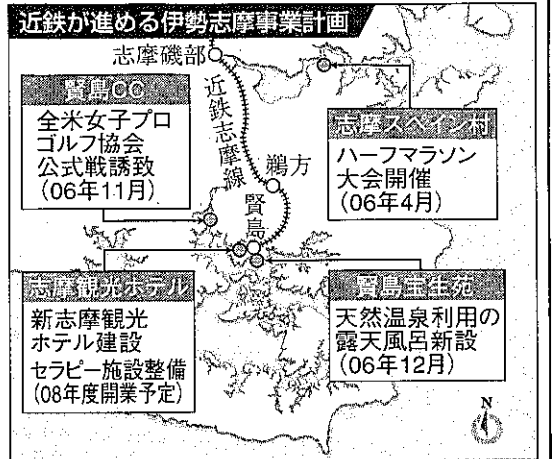


# 伊勢志摩観光復活へGO

## 近鉄の再生プラン着々

三重県伊勢志摩地域の観光再生に向け、近畿日本鉄道が打ち出した「伊勢志摩事業計画」が具体化してきた。宿泊・観光施設が集積する賢島（志摩市阿児町）では、天然温泉の掘削に成功し、今後も高級ホテル建て替えなど目玉事業がめじろ押しだ。思惑通り長距離特急のにぎわい復活につながられるのか。地元も熱い期待を寄せている。（経済部・渡辺道彦、志摩通信部・小柳津心介）



の賢島駅に、名古屋、大万人、伊勢志摩国立公園、京都からの直通特急への入り込み客が千九百電車が到着するようになつたのは一九七〇年。六ピークに低迷期に入り、四年の東海道新幹線の開業でドル箱だった名古屋から賢島までの客が千四百四十人、特急戦略の重点を都市間から観光地へと移した結果で、その後は右肩上がりの成長が続いた。だが、志摩スペイン村が開業した九四年度に、特急乗客数が五百五十三

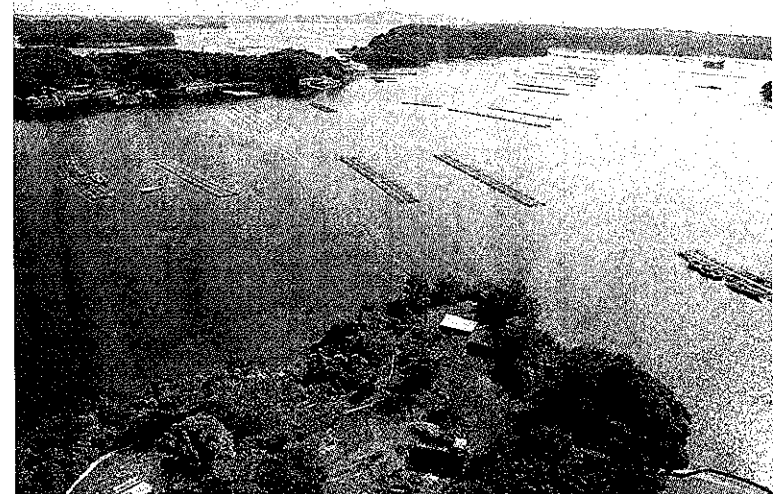
される。この間、近鉄は〇二年三月末で二兆七千四百七十五億円の連結有利子負債を抱え、プロ野球から撤退、遊園地の閉鎖などを断行した。レジャー部門中心の大幅なリストラは〇五年度まで一段落し、沿線観光地で最重要の伊勢志摩地域の再生に取り組みを境を整えた。近鉄伊勢志摩事業推進部の山本潤部長は「施設のリニューアルなどにより、健康やスポーツを目的にした滞在型リゾートを目指す」と、消費者ニーズの変化に対応した新たな魅力づくりを力を入れている。

市観光協会の木村主任朗会長も「新設される療養施設の利用者について宿泊は民宿を選んでもらうなど、地元としても互いに協力し合ってきた」と期待を込める。伊勢志摩事業計画は、再興の起爆剤となるか。賢島に鉄道が敷かれ、開発が始まった一九二九年から駅前に構える「松井真珠店」の先代社長の松井輝司さん（80）は「大きな火花を打ち上げても続かない。長い目で見て魅力ある観光地をつくらなければ」と、地道な努力の必要性を指摘する。

### ◆再活性化◆

「伊勢志摩はわれわれが開発してきた地域。もう一度活性化させて鉄道客を取り戻したい」。近鉄が昨年十一月に策定した伊勢志摩事業計画の投資額はグループ全体で約六十億円。山口昌紀社長は計画推進にかける熱い思いを語る。

志摩観光ホテルは建て替え、現在の建物は宿泊しながらエステやリハビリを受けられる療養施設に改装する。開業目標は二〇〇八年度。ホテルは客室を五十室と現在の三分の一に抑えるが、地元



## 「鉄道客を取り戻す」温泉、ホテルもイベント



伊勢志摩事業計画の一環で、英虞湾を望む賢島に庭園露天風呂の建設が進められる。三重県志摩市阿児町で

「ワシントン、米国産牛肉の対月末にも再開しの中、米国内の安全」の鍵の縮状脳症（BSE）が後退する事例でいる。費用は政府や業界の負担が動きたが、問題は無いと繰の姿勢に消費は反発を強めて対策費用は約五分の一、ケ万（約二十億）どまる。シニ務長官はBSE月後半から縮について、声「節約効果」

検査縮小、識別制度先送り…

## 米BSE対策後退